

- ・ 患者検体及び供血者検体のHCVウイルスは Genotype III (2a) であった。

(4) 担当医の見解

- ・ 副作用の程度は非重篤であり本剤との関連性は可能性はある。現在、AST/ALTは正常であるがHCVコアタンパクが上昇しており、免疫抑制状態のためにAST/ALTの増加がなく、HCV抗体も陰性と考えられる。輸血によるHCV感染が疑われる。

(5) 併用薬等

- ・ 当該患者は、輸血と同時期にプレドニゾロン、シクロスポリン、抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 患者と献血者とのHCVウイルスの相同性の確認を引き続き行う。
- (2) 当該患者のフォローアップを引き続き行う。
- (3) 血液の安全対策の推進
「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。